



介護人材採用 に向けた事例集

介護の入門的研修から入職までの
一体的支援（入門的研修・職場体験・マッチング等）モデル

自治体
向け

自治体向け

介護人材採用に向けた事例集

介護の入門的研修から入職までの一体的支援（入門的研修・職場体験・マッチング等）モデル

はじめに

- 介護に関する入門的研修について 02
- 介護の入門的研修から入職までの一体的支援モデル事業について 02
- 本事例集の概要 02

事例紹介

- モデル事業スケジュールの概要（7月～3月） 03
- モデル事業実施体制の概要 03
- モデル自治体一覧ガイド MAP 04
- 01 長野県 05
- 02 長野県 塩尻市 07
- 03 長野県 駒ヶ根市 09
- 04 静岡県 牧之原市 15
- 05 滋賀県 17
- 06 岡山県 19

コラム

- コラム① 研修受講者インタビュー（1） 11
- コラム② 研修受講者インタビュー（2） 11
- コラム③ 入門的研修のテキスト・教材 12
- コラム④ 地域の介護関係者と一緒に取り組む入門的研修～美咲会の例～ 12
- コラム⑤ 研修受講を促す地域の土壌作りと一体的支援～富山短期大学の例～ 13

参考資料

- 入門的研修・職場体験 参加者アンケート例 21

※本文に掲載している内容は、特段の記載がない場合には令和7年2月末時点のものとなります。

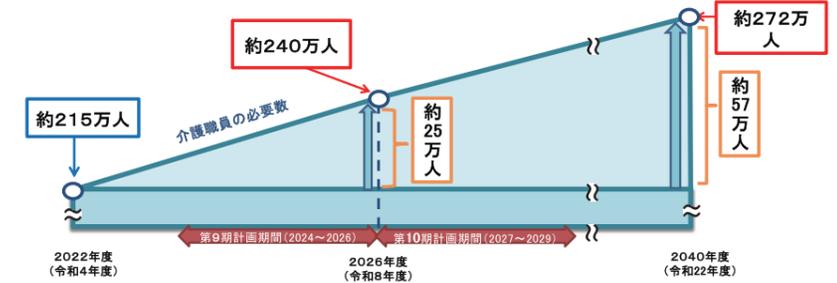
はじめに

高齢化が進み、介護ニーズは年々高まっています。厚生労働省が発表した「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員数の必要数」によると、令和4年度の約215万人に対し、令和8年度には約240万人の介護職員が必要と推計されていますが、介護関係職種の有効求人倍率は令和5年度で4.07倍と、全職業の1.17倍と比較し高い水準となっています。（有効求人倍率に関する出典：厚生労働省「一般職業紹介状況（職業安定業務統計）」）

介護に関する入門的研修について

介護未経験者等が介護に関する基本的な知識や技術を学ぶことで、介護業務に携わる上での不安を払拭し、多様な人材が介護現場に参入しやすくすることを目的とした研修で、実施主体は都道府県や市町村です。

図1 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について



（出典）厚生労働省 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について <https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/001274765.pdf>

図2 入門的研修の概要

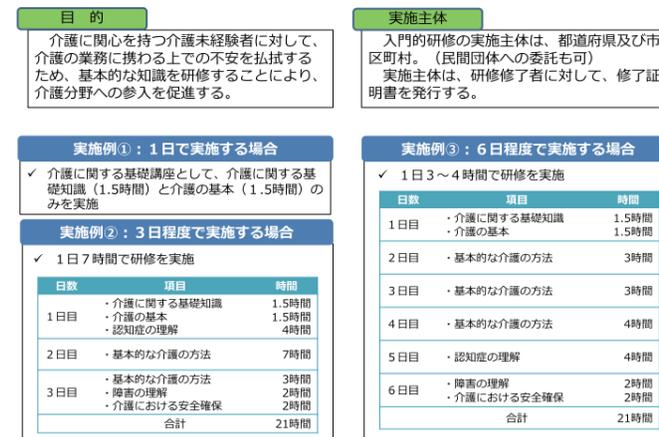
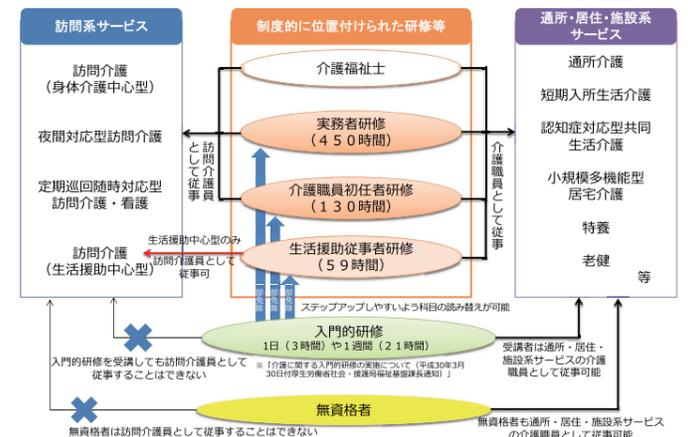


図3 入門的研修と各種研修等との関係



（出典）図2、図3ともに厚生労働省ホームページ「介護に関する入門的研修について」 <https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000465981.pdf>

介護の入門的研修から入職までの一体的支援モデル事業について

令和5年度補正予算に計上された「介護の入門的研修から入職までの一体的支援モデル事業」は、介護に関する入門的研修、職場体験、マッチング等を組み合わせて、研修の受講から入職までつなげる一体的支援を強化したモデル事業です。6つの自治体（長野県、塩尻市（長野県）、駒ヶ根市（長野県）、牧之原市（静岡県）、滋賀県、岡山県）がモデル自治体として取り組みました。

本事例集の概要

本事例集では、モデル6自治体の取組をまとめており、入門的研修から入職までの一体的支援を実践する自治体の皆様にとって、研修、職場体験、マッチング等の企画・運営のヒントとなるような情報を掲載しています。

- 読み手として、介護人材確保に携わる自治体職員を想定しています。
- 6カ所のモデル自治体の取組事例について、「体制」、「事業設計」、「周知・広報」、「入門的研修・職場体験（職場見学）」、「参加者へのフォローアップ」、「マッチング」の6つの段階に分けて、自治体の意図や工夫をPointとして記載しています。
- コラムでは、研修受講者の声や、モデル自治体以外の地域の入門的研修に関連する実践事例など、今後事業を実施する上で参考となる情報を記載しています。
- また、参考資料として、入門的研修・職場体験参加者アンケート例を記載しています。

本事例集を活用頂くことで、各自治体における介護人材確保に少しでも寄与できると幸いです。

モデル事業スケジュールの概要 (7月～3月)

自治体	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
長野県				事業者の決定		広報 チラシ等	入門的研修・職場体験	マッチング・定着支援 職場体験後に求職者と面接し、職場体験をした事業所での就労の意思を確認。	介護職員 初任者研修
塩尻市(長野県)	広報 市広報、市HP、市で開催するシニア向け講座での紹介等	入門的研修 6時間×1日	職場体験 県福祉人材センターと連携し、希望者には1日職場体験を実施	マッチング 県福祉人材センターにつなぎ、事業所との見学調整や、面談に向けた参加者の就職希望条件の伝達等を実施	広報 (1回目と同様)	入門的研修 6.5時間×1日(うち1時間は職場見学)	職場体験 (1回目と同様)	マッチング (1回目と同様)	
駒ヶ根市(長野県)	広報 市広報、LINE LINE公式アカウント開設	入門的研修 全3日間で実施 1日目は集合研修、2日目・3日目は希望する介護事業所で受講 2日目・3日目に個別面談実施	職場体験・初任者研修 LINE等から予約可能	マッチング・定着支援 LINEによる1:1チャット	広報 市広報、LINE、地域情報誌	入門的研修 (1回目と同様) 土曜日コース開設	職場体験 LINE等から予約可能	マッチング・定着支援 LINEによる1:1チャット	
牧之原市(静岡県)	広報 市広報、新聞折込チラシ、市HP、LINE、回覧板 協力介護サービス事業所の決定 ※5月	協力的介護サービス事業所への個別説明(機能分化)	求人票の提出	入門的研修・職場体験 全5日間で実施。(1日目は説明会) 希望者には職場体験の相談が可能	マッチング 就労意欲のある受講者にヒアリングを実施。 研修後、介護サービス事業所の見学・面接を実施				
滋賀県		事業者の決定	広報・申込者へのヒアリング 新聞折込み チラシ、フリーペーパー等	入門的研修・職場体験 研修最終日等に職場体験を実施する想定	マッチング(・定着支援) 人材センターが、マッチング支援(希望により職場体験・見学等を実施) 入職後、人材センターが就職先事業所にヒアリング・定着支援事業の案内をする				
岡山県	広報 自治体広報誌、新聞、ポスターやチラシの配布	入門的研修(計4回)・職場体験 3会場に分けて4回実施、内1セットは土曜日コース 全8日間のカリキュラム 7日目に職場体験を実施	マッチング・定着支援 職場体験の約1週間後に求人を出している事業所が説明会を実施 研修修了後、1か月後・3か月後に受講者にヒアリング就職希望があれば県福祉人材センター等につなぐ						

モデル事業実施体制の概要

自治体	広報	入門的研修の実施	職場体験の実施	マッチング・定着支援
長野県 (委託先：人材派遣会社)	県福祉人材センター、職業安定所でチラシ配布。	委託事業者が入門的研修・職場体験・就職ガイダンスを必ず受講できるカリキュラムを設定。	委託事業者が体験先を選定。	委託事業者が個別面談・電話で受講者にヒアリング。
塩尻市(長野県) (委託先：介護福祉士養成施設)	市が広報主体となり、市広報・市HPへの掲載、市主催シニア向け講座での紹介等を実施。	委託事業者が実施。委託先は市内にある介護福祉士を養成する学校。ベッドメイキングなどの実習も可能。運営母体が複数の介護事業所を運営しているため、福祉用具業者の協力も得る。	研修中に、職場見学と介護補助員として働く人の話を聴く機会を確保。1日体験の希望があった場合は、県福祉人材センターの通常業務に繋げる。市担当者が日程調整や面談立ち合いを実施。	県福祉人材センターの通常業務につなげるため、市担当者が希望者と県福祉人材センターの日程調整や面談に立ち会う。その後マッチング状況や課題を情報共有する。
駒ヶ根市(長野県) (委託先：市内9介護事業所)	市が、研修・職場体験を申し込めるLINE公式アカウントを開設。職場体験受け入れ事業所が、職場の雰囲気等を伝える動画作成に協力。 市の担当者が、企画調整・関係事業者の開拓、マッチング・相談対応にあたる体制整備を実施。担当係長がコーディネーターを務める。	市が実施主体となり、介護事業所と協力して開催。複数会場での研修環境を均一にするため、福祉用具業者の協力も得る。	市担当者が社会福祉法人等を訪問し、事業所に研修・職場体験の受け入れを交渉。別途、初任者研修も実施。	市が県労働局に無料職業紹介事業を届け出。市内の求人情報を取得し、LINEも活用しながら研修受講者に情報提供・個別面談を実施。
牧之原市(静岡県) (委託先：人材派遣会社)	市(市広報誌、市HP・LINE等)と委託事業者(新聞折込チラシ)が分業して広報活動を実施。	委託事業者が入門的研修のカリキュラムを設定。全5日間で実施。(1日目は説明会)	委託事業者が実施。就労希望者が介護サービス事業所を訪問し、職場環境を把握。	市が就労先として協力介護サービス事業所(R6：8か所)を選定。委託事業者が就労意欲のある受講者に個別面談等を行うことにより、ヒアリングを実施してマッチング。
滋賀県 (委託先：人材派遣会社)	委託事業者が新聞折込みチラシ、フリーペーパー等を活用。	別事業者が実施。2つの会場で、3日間の対面形式により実施。現場事例等を掲載した実演研修やテキストを使用。	委託事業者が県介護・福祉人材センターと連携して体験先の施設を受講者に提案する見込み。	来年度以降に再現できるよう、マッチングは県介護・福祉人材センターに依頼。入職後、県介護・福祉人材センターが就職先に入職者の状況ヒアリングを行い、定着支援する。
岡山県 (委託先：介護労働安定センター)	県福祉人材センター、職業安定所でチラシ配布。 委託事業者は県、県福祉人材センター、労働局との会議体を構築。事業計画の策定から効果の検証まで一貫して取り組む。 本事業を一体的に支援する「サポーター」を2名配置。	委託事業者が入門的研修・職場体験・就職ガイダンスを必ず受講できるカリキュラムを設定。	委託事業者が体験先を選定。県福祉人材センター、労働局の協力も得て介護事業所を開拓する。	委託事業者が個別面談・電話で受講者にヒアリング。県福祉人材センター、職業安定所へ繋ぐ。

モデル自治体一覧ガイドMAP

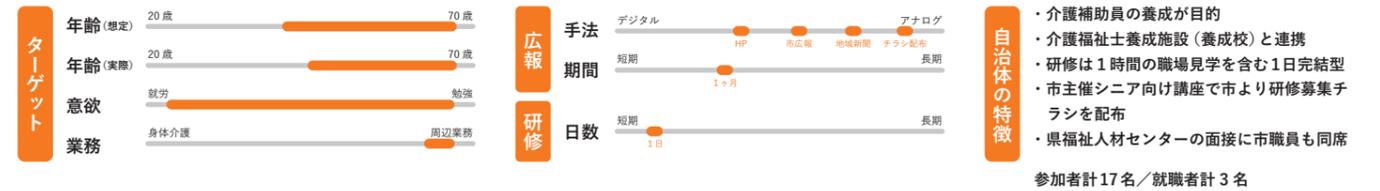
本MAPでは、モデル自治体における研修を以下のテーマでマッピングし、視覚的に比較ができるようにした。

ターゲット	年齢(想定)：各自治体が当初想定していた参加者の年齢層 年齢(実際)：実際に研修に参加した参加者の年齢層 意欲：各自治体が念頭に置いた参加者層は就労目的か介護の勉強目的か 業務：身体介護と周辺業務いずれへの就労を想定するか	広報	手法：研修の広報手法についてデジタル手法からアナログ手法まで並べて記載 期間：研修の広報期間
		研修	日数：入門的研修の開催日数(職場体験の日数は含まない) その他各自治体の研修内容等のポイントを追記

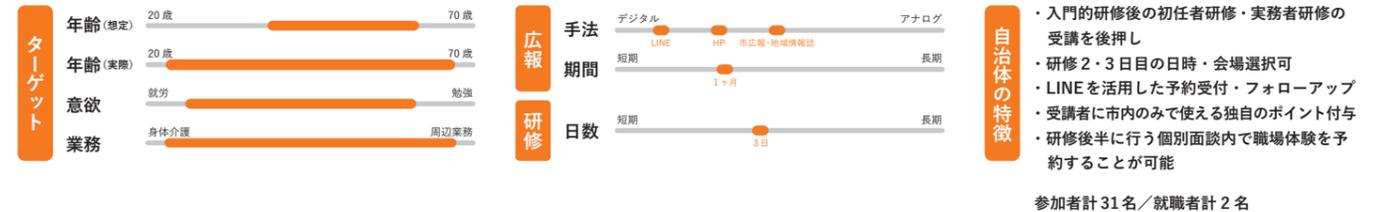
01 長野県



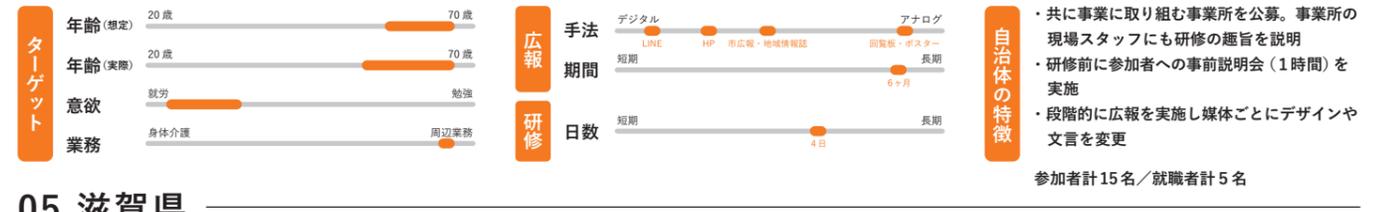
02 長野県 塩尻市



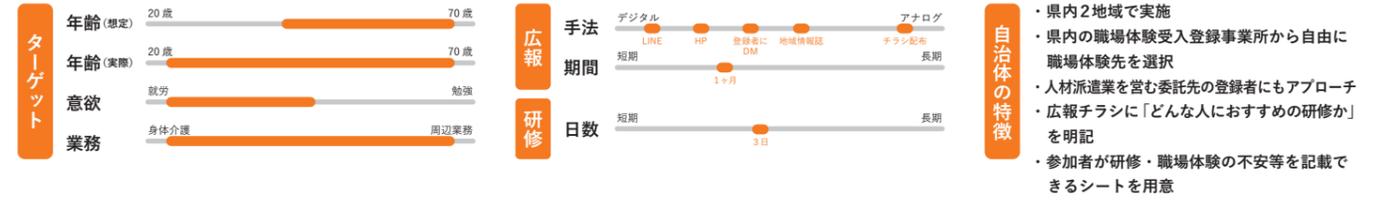
03 長野県 駒ヶ根市



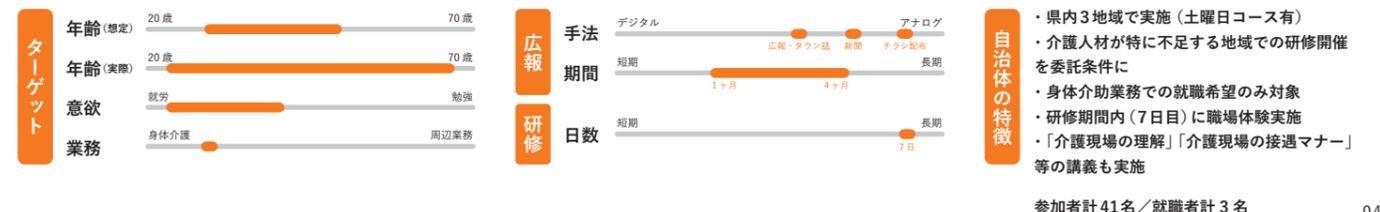
04 静岡県 牧之原市



05 滋賀県



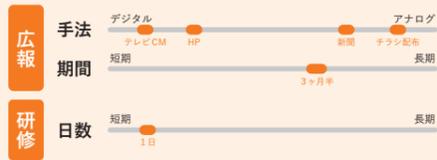
06 岡山県



01 長野県

基礎データ (R6.10.1 現在)

人口 1,989,104 人
 高齢者人口 645,496 人
 高齢化率 33.1%



自治体の特徴

- ・訪問介護員の養成が目的
- ・初任者研修の実施までを一体化
- ・約450社の介護事業所に電話で職場体験受け入れと研修受講者の採用を打診
- ・テレビで15秒のスポットCMを放映
- ・参加者向けの事業説明会を実施。個別カウンセリングをし、介護職としての適性を確認

参加者計4名/就職者計4名

全体スケジュール



体制

- ・担当者数：2名
- ・プロポーザル方式で人材派遣会社に委託。入門的研修・初任者研修の実施は別会社に再委託。

事業設計

【ターゲット層】

- ・長野県では訪問介護員の不足が喫緊の課題であった。そのため、モデル事業を活用し、訪問介護員の確保を見据えて、入門的研修の受講や職場体験により介護への理解促進を図りながら、その後に介護職員初任者研修の受講を必須とする、「訪問介護員入職促進モデル事業」として実施した。
- ・なお、本モデル事業とは別の介護職入門者向けの施策として、「信州介護人材誘致・定着事業（以下「定着事業」）」を実施し、「介護補助員研修」によって介護の周辺業務を担う介護補助員を採用している。

Point

- ①介護未経験者が、介護を学ぶ入り口として入門的研修を実施。入門的研修後、初任者研修も必ず受講する設計とした。
- ②「訪問介護員入職促進モデル事業」は令和6年度が初年度だが、過去9年間実施する「定着事業」の事業スキームを用いて、参加者の希望に合わせて研修日程を決定。
- ③人材派遣会社がこれまで関係性を持つ56社に加え、県から提供された約450社の訪問介護事業所全てに電話で職場体験受け入れと研修受講者の採用を打診し、さらに40社から協力を得た(計96社)。
- ④介護事業所には、3か月の職場体験(職場でのOJT)中に参加者へマンツーマンで指導することを依頼。

周知・広報

- ・テレビCM、WEB広告(Google、Facebook、LINE)、新聞、ハローワークや市役所等でのチラシ配布、新聞折込チラシで広報。
- ・テレビCMがきっかけとなって受講した参加者が多かった。
- ・「無料で資格取得できること」「隙間時間で働けること」「元気であれば何歳でも働けること」などをPR。

Point

- ①10月～1月半ばまで民間4局で15秒のスポットCMを放映。テレビからウェブへのアクセス・応募につながられるため短期的な訴求効果が大きい。
- ②紙媒体(チラシ)での周知も実施。

広報チラシ



入門的研修・職場体験

- 【入門的研修】 研修日時：4回(4会場：参加者に合わせ日程調整)
 研修時間：1日(3時間：基礎講座のみ)
 受講料：無料
- 【職場体験(職場でのOJT)】 令和6年12月～令和7年2月に実施(期間は参加者によって異なる)
- 【初任者研修】 研修日時：令和6年12月17日～令和7年5月8日(2名参加)(実習：令和7年4月2日～令和7年5月8日)
 令和7年1月10日～令和7年3月28日(1名参加)(実習：令和7年3月15日～令和7年3月27日)
 令和7年1月20日～令和7年6月9日(1名参加)(実習：令和7年5月10日～令和7年6月8日)
 研修時間：全16回/週1日/9時半～16時半
 受講料：無料

Point

- ①研修前に県内4エリアで約10回の事業説明会を開催。個別カウンセリングを行い、介護職としての適性確認や受講日の調整を実施。
- ②入門的研修はファーストステップとして短時間で受講できるよう、基礎講座のみ実施。
- ③入門的研修を受講開始する段階で職場体験の受け入れ先を決定。職場体験(職場でのOJT)・初任者研修の実習時には事業所の先輩職員がマンツーマンで同行。事前に介護事業所に本事業のスキームを説明し、ベテラン職員の同行を依頼。
- ④初任者研修については、本事業とは別に行われている民間事業者主催の研修を活用。
- ⑤3か月の職場体験(職場でのOJT)を経てから入職。令和7年2月に全てのOJTが終了し、3月1日に入職予定。初任者研修を修了するまで、受講者は働きながら研修を受ける。

研修実績

【参加者】R6：4名【R6年度の修了者】4名【R6年度の参加者属性】40代2名、60代2名(男女比：0:4)

参加者へのフォローアップ

職場体験(職場でのOJT)期間中は委託事業者が定期的に面談を実施。

マッチング・就職

人材派遣会社が参加者の希望する就職条件を聞き、条件に合う事業所を探す。

Point

- ①事業説明会後に研修参加の意思がある人に対し個別カウンセリング(最低1時間)を実施。長く介護業界に従事できる可能性があるかについて確認し、前向きな意思がある人のみを入門的研修に案内。
- ②カウンセリングでは入職候補者の介護職への適性を測るため、これまでの経験を確認。バックグラウンドを含めた深い話や人生経験も引き出して、信頼関係を構築。

就職者・雇用形態及び職種 (R6年度実績)

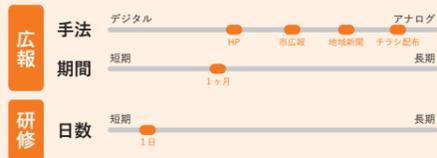
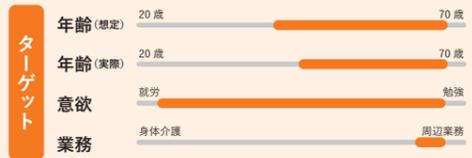
パートタイム4名(介護職)
 (令和7年2月末時点)

02

長野県 塩尻市

基礎データ (R6.4.1 現在)

人口 65,435 人
 高齢者人口 19,095 人
 高齢化率 29.2%

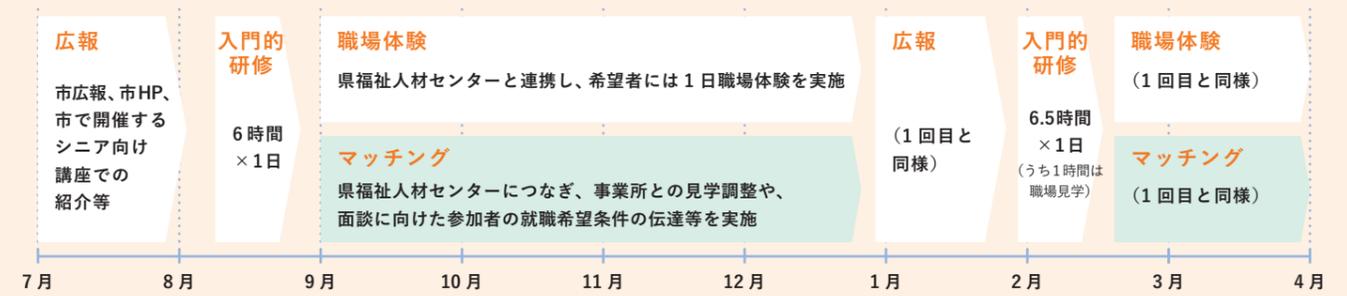


自治体の特徴

- ・介護補助員の養成が目的
- ・介護福祉士養成施設(養成校)と連携
- ・研修は1時間の職場見学を含む1日完結型
- ・市主催シニア向け講座で市より研修募集チラシを配布
- ・県福祉人材センターの面接に市職員も同席

参加者計17名/就職者計3名

全体スケジュール



体制

- ・担当者数：3名
- ・随意契約で介護福祉士養成施設(養成校)に研修実施を委託
- ・2月の研修では事業所1か所に職場体験受け入れを依頼

Point

- ①講師の質の担保や、ベッドメイキング等の実習場所の確保が可能な養成校に研修実施を依頼。
- ②職場見学先として選定した事業所とは日頃から定期的に情報を交換。(1)無資格者を介護補助員で採用していること(受講者が有益な話を聞ける)(2)研修会場からの距離が近いこと(1日のプログラムに職場への往復移動を含む)が選定理由。

事業設計

- ・【ターゲット層】
 - ①シニア層(地域に貢献したい人が多いと想定)
 - ②子育て中の人(仕事を再開したい人が多いと想定)
- ・募集対象「介護の勉強をしたい人や介護分野で働きたい人」
- ・就職形態として介護補助員を想定し、「介護補助員養成講座」として開講

周知・広報

- ・市広報・市HP、地元新聞、市主催シニア向け講座内での周知を実施。加えて、乳幼児健診に来庁する家族へのチラシ配布や各支所・図書館でのチラシ配置も行う。

Point

- ①介護福祉士養成施設(養成校)から助言を受け、告知記事に「シニア世代・子育て世代大歓迎」と記載。
- ②一番効果があったのは市広報(市広報の2週間後に、地元新聞での告知を見て参加した人も1、2名)。
- ③令和6年5月に市主催シニア向け講座で市が講義した際に研修を案内(募集段階でも講座受講者にチラシを配布。令和6年8月の研修2名、令和7年2月の研修1名の参加につながった)。

広報チラシ

介護補助員養成講座

これから介護の勉強をしたい人や
介護分野で働きたい人を対象に
介護の基本的な技術を学ぶ入門講座を行います。

日時 令和7年2月17日(月)
午前8時45分～午後4時半まで

場所 学校法人松樹学園 信州介護福祉専門学校
住所：塩尻市大門三番町4番地24号

内容 介護の基礎知識と市内介護事業所の見学
講師：信州介護福祉専門学校専任講師

対象者 市内在住で介護の勉強をしたい人
介護分野で働きたい人

定員 10名(定員となり次第申込みを終了します。)

参加費 無料

申込み 2月12日(水)までに、
市介護保険課へ電話 0263-52-0285
もしくはQRコードの申込フォームから
お申し込みください。

その他 ○介護補助員は、介護職員をサポートするスタッフです。
ご高齢者の話し相手や居間の掃除、食事の配膳・下膳など、
身体介護以外の業務を担います。
○介護補助員として市内介護事業所で働きたい人には、後日
希望する事業所の見学や案内をします。

子育て中
シニア世代の方
大歓迎

申込フォーム

【問合せ先】塩尻市役所介護保険課介護保険係 電話：0263-52-0285(直通)

入門的研修・職場体験

- ・研修日時：年2回(8月、2月)
- ・研修時間：1日(8月：約6時間、2月：職場見学1時間を含めた6.5時間)

Point

過年度参加者から、「連続3日間の参加は難しい」という意見を踏まえ、開催方法を大幅に変更。

<R3～R5年度>

- ・3日間開催(基礎講座と入門講座を実施)
- ・受講料 1,000円

<R6年度>

- ・基礎講座に絞り1日開催
- ・受講料を無料に



入門的研修・職場見学カリキュラム

研修科目	時間
開講式・オリエンテーション	8:45-8:55
介護に関する基礎知識	9:00-12:00
基本的な介護の方法	13:00-14:30
移動	14:30-15:00
職場見学	15:00-16:00
移動	16:00-16:15
閉講式・就職支援	16:15-16:30

【職場見学の内容】

- ①業務内容や職場紹介
- ②職員の入職経緯・入職後の体験談
(スピーカーは事業所が独自採用した60代職員※入門的講座未受講)
- ③質疑応答

研修実績

【参加者】R3:10名、R4:13名、R5:6名、R6:17名(8月:8名、2月:9名)
 【R6年度の修了者】8月:8名、2月:9名
 【R6年度の参加者属性】8月:50代3名、60代3名、70代2名(男女比4:4)
 2月:40代1名、60代5名、70代1名、80代2名(男女比2:7)

参加者へのフォローアップ

研修修了後に就職支援の希望有無をアンケートで確認。
 希望者には、研修修了後時間を空けずに県福祉人材センターが面接を実施。

マッチング・就職

県福祉人材センターが参加者の希望する就職条件を聞き、条件に合う事業所を探す。

Point

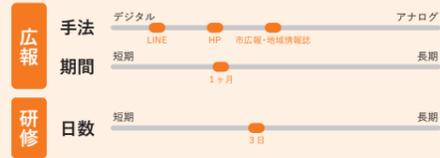
- ①県福祉人材センターの面接に市職員も同席し、就職希望者がスムーズに安心して就職できるよう支援。
- ②介護事業所が多数参加する連絡会議において、市が介護補助員養成講座を周知し、講座修了者の積極的な採用を依頼。

入門的研修をきっかけに入職された人へのインタビュー (p11)

03 長野県 駒ヶ根市



基礎データ (R6.10.1 現在)
人口 31,175 人
高齢者人口 9,955 人
高齢化率 32.3%



- 自治体の特徴
- ・入門的研修後の初任者研修・実務者研修の受講を後押し
 - ・研修2・3日目の日時・会場選択可
 - ・LINEを活用した予約受付・フォローアップ
 - ・受講者に市内のみで使える独自のポイント付与
 - ・研修後半を行う個別面談内で職場体験を予約することが可能

参加者計31名／就職者計2名

体制

- ・担当者数：3名（うち、理学療法士〔出向者〕1名）
- ・市内9介護事業所に委託（うち、1事業所は職場体験のみの委託）

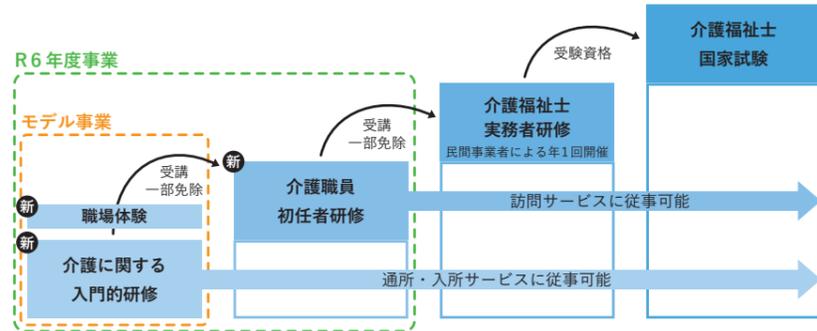
Point

- ①事業所に「事業所単独での人材確保は限界。地域全体で介護人材を養成し増やそう」と働きかけ、協力を得た。
- ②用具の設置・撤去は福祉用具業者が行い、事業所には会場の提供と講師の就任のみ依頼。

事業設計

【ターゲット層】

- ・16歳以上の市民又は市内の介護事業所で働く無資格就業者（市外の人含む）を対象に実施。
- ・介護事業所への就労を見据えた主要ターゲットとしては、子育てが一段落した層（40代以降）を想定。



Point

- ①入門的研修をステップアップの一步目と位置付け（上図）、入門的研修を端緒に、次の資格の取得を後押し。
- ②国家資格取得に続く道のりの第一歩であることを示して市民の認知を高め、介護職に関心のある人を入門的研修に呼び込む。

周知・広報

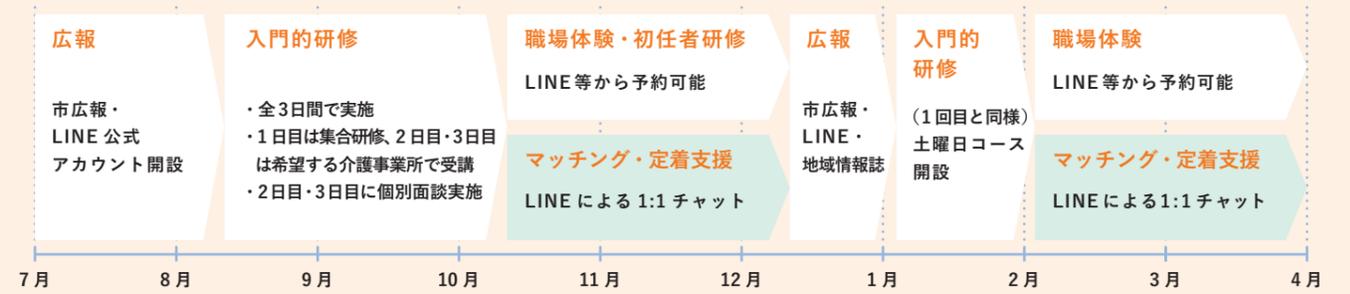
- ・市広報を全戸配布。令和6年12月には地域の情報誌に介護資格のステップアップに関する特集記事を掲載。
- ・「介護の問題は地域で解決」、「家族介護に不安のある人も参加可能」とPR。

Point

- ①研修の予約・キャンセルをLINEで一元化。電話予約の場合職員がLINEに参加者情報を代理登録。参加者が気軽に参加でき、職員の事務負担軽減にも。
- ②受講者に市内のみで使える独自のポイント付与。
- ③社協等の地域の活動への参加を意識し、市内のみで使えるポイントの付与は社協で実施。



全体スケジュール



入門的研修・職場体験

- ・研修日時：年2回（8・9月、1月）
- ・研修時間：3日（計21時間）
- ・職場体験：1日又は2日（1日につき3時間程度）
- ・受講料：入門的研修 180円／職場体験 180円（入門的研修受講者は無料）

Point

- 【1日目】市職員・社協職員が講義
- ①テキストは市販品のうち写真が多いものを選定。加えて、テキスト内で不足するものは独自に教材を作成。
- 【2・3日目】各事業所で介護福祉士等が講義
- ②日時・場所を受講者が自由に選択（2日目と3日目を別会場で受講することも可）。就職先候補や家の近くの事業所を選べる。
- ③参加者同士の関係づくりのしやすさを考慮し、各事業所の定員を4名に。
- ④講師には介護福祉士資格を持って働く場合と無資格で就業する場合の違いや仕事のやりがいを伝えるよう依頼。
- ⑤講義を通して、講師が自身の仕事への理解を深め、地域とつながりを持てるようになることを期待。

研修実績
【参加者】R6:31名（8・9月:21名、1月:10名）
【R6年度の修了者】8・9月:21名、1月:10名

【R6年度の参加者属性】
8・9月:20代2名、30代1名、40代5名、50代4名、60代6名、70代3名（男女比4:17）
1月:30代5名、50代3名、60代1名、70代1名（男女比2:8）

入門的研修カリキュラム

令和6年度 介護に関する入門的研修

研修日程・会場

講座	日程	会場	定員
1日目	1月11日(土)	駒ヶ根市社会福祉協議会 ふれあいセンター (柴の木2-25)	24名
	1月15日(水)	こまちの家 (下市場32-3)	4名
2日目	1月15日(水)	特別養護老人ホーム エーデルこまがね (赤穂14421)	4名
	1月18日(土)	駒ヶ根市役所 南庁舎2階 大会議室 (赤穂10816)	4名
3日目	1月18日(土)	こまちの家 (下市場32-3)	4名
	1月22日(水)	駒ヶ根市役所 南庁舎2階 大会議室 (赤穂10816)	8名
	1月22日(水)	特別養護老人ホーム エーデルこまがね (赤穂14421)	4名
	1月25日(土)	特別養護老人ホーム かがやき (赤穂14-892)	4名
		特別養護老人ホーム 親成園 (赤穂3214-1)	4名
		特別養護老人ホーム 千寿園 (赤穂6180-12)	4名
		こまちの家 (下市場32-3)	4名
		駒ヶ根市役所 南庁舎2階 大会議室 (赤穂10816)	8名

市内の介護事業所等に就労する意志(*)があり、上記の日程で都合がつかない場合は、お問い合わせ先までご相談ください。*市職員による個別面談や市内介護事業所への職場体験等に参加できる方に限ります。

入門的研修を受講するメリット

- ・初年度に限り、介護職場体験の参加が無料！【2月未まで】施設見学や体験を通して介護サービスを知りたい学びたい方におすすめです。受講可能な市内の介護事業所で、2日(1日につき3時間程度)参加できます。市民であれば、介護職場体験の参加1日につき、えがおポイント「250ポイント」がもらえます。
- ・介護職員初任者研修の受講の一部が免除！【介護職員初任者研修】の受講をお考えの方は、入門的研修を修了されていると受講の一部(21時間分)が免除されます。介護職員初任者研修を修了すると、通所や入所だけでなく訪問介護にも従事できるようになります。

入職に向けた一環として行っている取組

入門的研修受講者は、初任者研修を受ける際、通学2日間・自宅学習1日間が免除される（無資格職員が初任者研修に参加しやすくすることを企画）

参加者へのフォローアップ

研修の2・3日目に、市の職員が介護事業所に出向き個別面談を実施。その場で職場体験を予約できるようにした。

Point

- ①個別面談後は市職員がLINEによる1対1チャットを実施。電話はつながらない可能性があるためLINEを利用。
- ②返信メッセージは自動生成ではなく、個別対応感を出すよう工夫。

マッチング・就職

市が無料職業紹介所を開設。
市職員が参加者の希望する就職条件を聞き、条件に合う事業所を探す。

就職者・雇用形態及び職種 (R6年度実績)
パートタイム2名(介護職)
(令和7年2月末時点)

コラム① 研修受講者インタビュー (1)



Aさん 60代・男性

父親の介護を機に介護職に関心を持つようになった。現在は不動産業界で嘱託職員として勤務。令和6年9月～11月に入門的研修受講後、令和7年4月から約半年職業訓練校で実務者研修を受講。実務者研修修了後、介護福祉士を目指し就職活動を行う予定。

Q. 研修を受講されたきっかけを教えてください。

A. 父親の介護をしていた時期に新聞で入門的研修の応募広告が目に入り、参加費が無料だったこともあり参加を決めました。また、研修開催日が現職の休みと重なっていたことに加え、研修の開催日が飛び石開催で勤務調整が容易だったことも参加のきっかけになりました。

Q. 研修や職場体験で印象に残ったことを教えてください。

A. ショートステイ事業所で職場体験を行ったときに、利用者の食事の準備や散歩の補助を急ぎよ行うことになったことです。驚きましたが、作業自体には抵抗なく、実務を行うことができました。

Q. 研修を受講し、就職意欲は高まりましたか？

A. 研修内の「介護現場の理解」というプログラムで40代の途中から介護現場に携わっている人の実体験を聞いたことで、自分も介護職に就こうと思いました。研修自体が自分の人生の中で貴重な機会であり、実体験を聞くことで働くイメージを持つことができたため、非常に良い刺激となりました。

Q. 就職に向けて、自治体等から受けたサポート内容について教えてください。

A. 県福祉人材センターと定期的に就職相談の連絡を取り合っています。介護福祉士の資格を取得したいと相談したところ、資格取得に必要な実務者研修について、介護現場で働きながら受講するよりも、修了してから就職した方がよいのではないかなどの助言がありました。実務者研修修了後に就職し、正社員として週5勤務をしながら、介護福祉士の資格取得を目指したいと考えています。

コラム③ 入門的研修のテキスト・教材

入門的研修の実施にあたり、研修教材に工夫を凝らす自治体・団体がありました。

駒ヶ根市では、入門的研修のテキストをいくつか取り寄せ、参加者が介護の仕事の様子を想像しやすいように、写真が多い市販テキストを選択しました。

他の工夫として、補足資料を使用している例も見られました。駒ヶ根市では、市販テキストには記載が少ない障害の理解等の科目に関する資料をオリジナルで作成しました。また、岡山県では、座学だけでなく、ベッドやポータブルトイレを使用した実技の時間を多く設けており、実技の際には市販テキストに加え、内容をより深く理解するための配布資料（テキストをかみ砕いて解説している資料や、更衣介助の際に気を付けること・注意点を図解した資料等）を用意し、説明を行いました。

参加自治体以外の取組例もご紹介します。

埼玉県三芳町にある社会福祉法人美咲会と社会福祉法人めぐみ会が共同で設立した一般社団法人Kaigo福祉Labでは、入門的研修のテキストが県内であり普及していないという課題の解消を目指して、新たな入門的研修のテキストを作成中です（令和7年9月完成予定）。「埼玉県産」であることが特徴で、研修参加者の地元への理解を促進するため、埼玉県にゆかりのある有識者に執筆を依頼しています。その他にも、以下の特徴があります。

<テキストの特徴（想定）>

- ①外国人にもわかりやすい工夫
- ②小中高生などへの福祉教育でも活用を目指す
- ③介護施設におけるケアアシストの導入事例の収録
- ④ホワイトボードアニメーションと連動
- ⑤学ぶことで介護の魅力に触れる機会となる

入門的研修を実施する各自治体・団体が、受講者の理解を深めるため、それぞれ教材について工夫していることが分かります。

コラム② 研修受講者インタビュー (2)



Bさん 60代・女性

民生委員や社会福祉協議会の理事としての活動経験あり。調理師免許を持つ。令和5年に自身と夫の実家がある塩尻市に移住。10年ほど前に義母の介護を行っていた。

Q. 今はどういった仕事をされていますか。

A. ケアハウスで、パートタイムの形で週2・3回、7～9時まで朝食の配膳と見守りを担当しています。

Q. 研修を受講されたきっかけを教えてください。

A. 令和6年に市主催シニア向け講座を受講していたときに研修の案内がありました。無料かつ、受講日数が1日であることで気軽に参加できました。入門的研修に申し込んだ時点では就職意欲はなく、介護の知識を勉強したい気持ちで受けました。最初から市が「絶対に就職してほしい」という姿勢を見せていたら、入門的研修を受けていなかったと思います。

Q. 研修で印象に残ったことを教えてください。

A. ベッドメイキングや、パジャマへの着替え、車椅子利用にあたる補助などの学びが楽しかったです。自分がスキルアップできるのを感じました。

Q. 就職への前向きな気持ちが生まれたきっかけを教えてください。

A. 参加者の一人に「講習を受けたのだから、就職するよね?」と言われたことがきっかけです。研修中にほかの受講者とコミュニケーションを取ることができ、研修後も色々な人と関わりがあったことで、徐々に就職意欲が湧きました。

Q. 就職に向けて面談した際の感想を教えてください。

A. 県福祉人材センターの担当者との就職に向けた面談に同席した市職員の方が、研修でベッドメイキングをペアで実施した人だったので安心感がありました。また県福祉人材センターの担当者は自分と同年代で、ざっくばらんに話せました。

Q. 入職後の感想（心境の変化等）を聞かせてください。

A. 毎日変化のある仕事だと言うことがわかり、今日はどんなふれ合いができるか楽しみにしてきました。適度な緊張感もあります。朝から入居者が助けてくれたり笑ってくれたりすると、良い一日になるような気がして有り難いです。

コラム④ 地域の介護関係者と一緒に取り組む入門的研修 ～美咲会の例～

入門的研修をきっかけとして入職につなげるためには、地域の事業者や福祉人材センターなど、関係機関との連携が重要です。本コラムでは、埼玉県三芳町で地域の事業所等を巻き込みながら入門的研修に取り組む社会福祉法人美咲会の事例を紹介します。

社会福祉法人美咲会では「オール三芳町で取り組む」ことを目的とし、以下の2点について地域の事業所等を巻き込んで事業を実施しています。

①三芳町内の介護施設・事業所が研修講師を担当

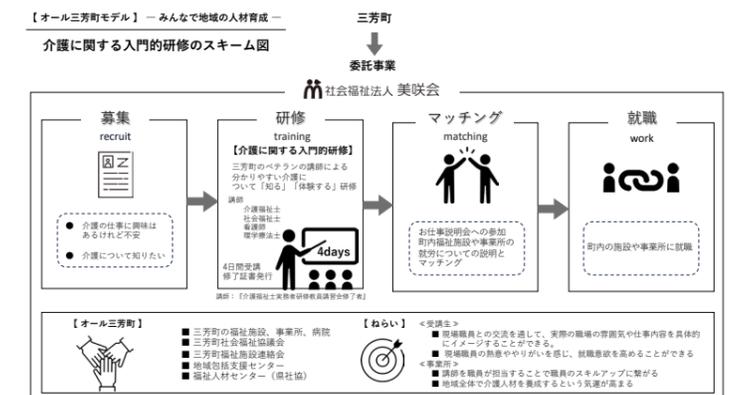
美咲会は町内の介護施設・事業所に、入門的研修の各科目の講師を担ってもらう声をかけました。こうしたつながりを通じて、地域全体で介護人材を養成するという気運の高まりと、地域事業者の連帯を狙ったのでした。

また、講師を担う介護人材にとっては、**受講者に教えることを通じて、それぞれの職員の学び・スキルアップにもつながり**、各事業者にとっても人材育成につながる取り組みになりました。

②町内の事業者が参加する就職相談会を実施

研修カリキュラム内では、事業者と参加者のマッチングの場として就職相談会（通称：お仕事説明会）を設けています。講師の所属施設・事業所を含め町内の多くの事業者が参加しており、研修と就職相談を一体的に構成することで、採用率の向上を狙うと同時に、ここでも地域全体で人材を採用するという雰囲気醸成しています。

三芳町における『介護に関する入門的研修』全体スキーム



(出典：社会福祉法人美咲会作成)

04

静岡県 牧之原市

基礎データ (R6.10.31 現在)

人口 42,405 人
 高齢者人口 14,335 人
 高齢化率 33.8%

ターゲット



自治体の特徴

- ・共に事業に取り組む事業所を公募。事業所の現場スタッフにも研修の趣旨を説明
- ・研修前に参加者への事前説明会(1時間)を実施
- ・段階的に広報を実施し媒体ごとにデザインや文言を変更

参加者計15名/就職者計5名

体制

- ・担当者数：2名
- ・随意契約で人材派遣会社に委託。市民向けに入門的研修主旨の説明会、協力介護サービス事業所向けに研修受講者受入に関する説明会を実施。

事業設計

【ターゲット層】

- ・65歳以上の市民。元気な高齢者の社会参加と介護予防の促進を目的とする。
- ・周辺業務への就職を想定。

Point

- ①研修実施にあたり、市と共に事業に取り組む協力介護サービス事業所を公募(R6:8か所)。
- ②協力介護サービス事業所は研修参加者の就職先候補。事業所からの応募が少なければ、電話で個別に協力依頼。

- ・市HP、メール、LINE、広報冊子、市民への回覧板、お店へのポスター掲載、受託者のHP。
- ・応募条件を「介護に興味があること」と設定。周辺業務として柔軟な働き方ができる点に着目し、過去の研修参加者の参加きっかけの話も参考にして、「ぶちアルバイトしませんか」「ダブルワーク歓迎」といった訴求文言に。

※用意した広報チラシ4種 左から研修ポスター、回覧板、65歳以上の人用チラシ、LINE

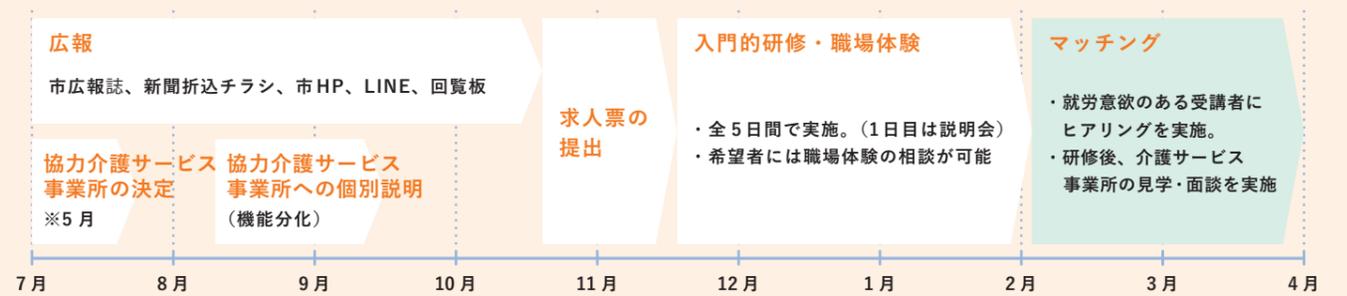


周知・広報

Point

- ①広報期間を約6か月確保することで、状況を見て広報手段の追加が可能に。
- ②市報掲載(6月)、新聞折込チラシ配布(9月)、LINEで情報発信(10月)、回覧板(11月)と段階的に広報を実施。一度募集を見ただけで心が動く人もいれば、何度か目にして意欲が湧く人もいるため。
- ③令和6年度の参加きっかけはLINE(5名)、市広報(2名)、回覧板(2名)。
- ④令和5年度まではLINE広報に加え市内65歳以上の人全員にチラシを送付。(令和6年度はLINEで募集人数が増えたためチラシは送付せず)
- ⑤各広報媒体の特性に合わせてデザインや文言を変更。(例.LINEでは目に留まりやすいよう文字数を少なくする等)

全体スケジュール



入門的研修・職場体験

- ・研修期間：4日(計21時間)、週2回程度(実際に働く場合のスケジュールに合わせて設定)
- ・受講料：無料
- ・研修終了後、就職するにあたって悩みがある人に職場見学を案内。希望者は参加者の半数程度。

Point

研修前に参加者向け事前説明会(1時間)を実施。研修の意図や内容、就職する場合の業務内容を説明し、離脱防止や就職のイメージ醸成を目指す。

研修実績

【参加者】R1:24名(年2回実施)、R2:13名、R3・R4:中止(新型コロナウイルス感染症の影響)、R5:9名、R6:15名
 【R6年度の修了者】15名
 【R6年度の参加者属性】50代3名、60代6名、70代6名(男女比2:13)

研修直前に参加者に送付した案内連絡



入門的研修カリキュラム

日程	研修科目	時間
説明会		
1日目	介護に関する基礎知識 介護の基本	13:30-14:30 9:30-12:00
2日目	介護の基本 認知症の理解	13:00-15:00
	基本的な介護の方法	13:00-16:00
3日目	基本的な介護の方法	09:30-12:00 13:00-16:00
	基本的な介護の方法 障害の理解	09:30-12:00
4日目	障害の理解 介護における安全確保	13:00-15:30
	修了証授与 閉校式	15:30-16:00

参加者へのフォローアップ

- ・6年以上の活動実績がありノウハウを持つマッチング支援専属スタッフがサポート。就職後もサポートを継続し、年度をまたぐ場合も相談を受付。
- ・支援員には家族のように気軽に相談できる人を選ぶ。

マッチング・就職

人材派遣会社が就職希望を聞いて条件に合う事業所を探す。

Point

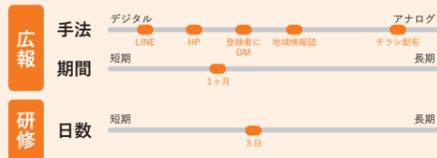
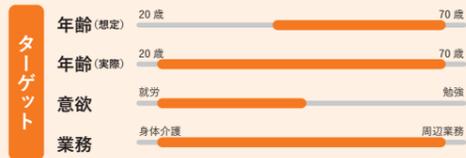
- ①電話での申込受付の際、「介護の勉強会」ではなく「介護事業所で働きやすくなるための研修」であることを説明することで、受講時に「周辺業務をやるのになぜ身体介護を学ぶのか」という疑問が生じることを予防。
- ②参加者が就職後に正しい指導を受けるためには、施設の人事担当者や施設長だけでなく現場が入門的研修の目的を理解する必要がある(令和元年度は、施設側が就職者に周辺業務以上の業務を求めてしまい短期離職者が多かった)。そのため、人材派遣会社が、協力介護事業所への事業説明後に各事業所のスタッフへも個別説明会を実施した。

就職者・雇用形態
及び職種
(R6年度実績)
 パートタイム5名
(周辺業務4名、身体介護業務1名)
(令和7年2月末時点)

05 滋賀県

基礎データ (R6.10.1 現在)

人口 1,400,812人
 高齢者人口 374,970人
 高齢化率 27.4%



自治体の特徴

- ・県内2地域で実施
- ・県内の職場体験受入登録事業所から自由に職場体験先を選択
- ・人材派遣業を営む委託先の登録者にもアプローチ
- ・広報チラシに「どんな人におすすめの研修か」を明記
- ・参加者が研修・職場体験の不安等を記載できるシートを用意

参加者計22名/就職者計1名

体制

- 担当者数：2名
- 公募型プロポーザル形式で人材派遣会社に委託。研修実施にあたっての講師派遣は別業者に再委託。
- 県から、職場体験受入登録事業所に向けて、一体的支援事業について説明する通知を书面で送付。職場体験受入登録事業所は、県福祉人材センターの登録事業者（無料職業紹介所）や県老人福祉施設協議会、県介護老人保健施設協会、県介護サービス事業者協議会連合会）に案内して集める。参加者に職場体験後ヒアリングを行い事業所の質を担保している。

事業設計

【ターゲット層】

- 元気高齢者・子育て終わりの人等（広報は元気高齢者向けに実施）

Point

- ①研修参加者が**職場体験をしたい事業所を自由に選択可能**。県内の職場体験受入登録事業所が対象。
- ②県福祉人材センターが委託事業者に事業所リスト（県福祉人材センターHP公表済）を送付。

周知・広報

- HP（専用ページ作成、県HPにリンク）、新聞折込、地方の情報誌、メール（委託先の登録者宛てに連絡）、LINE
- 最も集客につながったのは委託事業者のサービス登録者への連絡。ターゲットの年齢層と購読者層が近いため、新聞の折込チラシ経由での応募もあった。

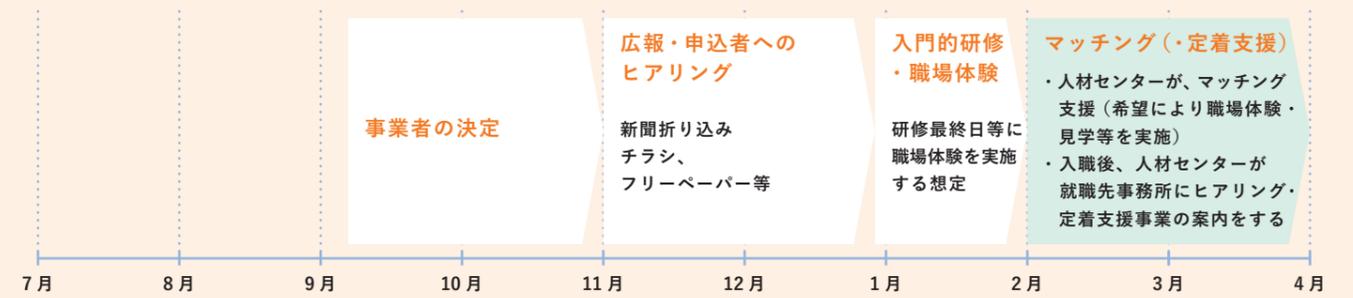
Point

- ①チラシの**画像に中高年の人物の写真を**選び、「私も対象なんだ」という意識を持ってもらえるよう印象付け。
- ②求職者との関わりから**入門的研修の訴求対象を整理し**、「こんな人におすすめです!」と明記。
- ③介護職に就く人は「**誰かの役に立ちたい**」と思う人が多いと考え、**誰かの役に立てるというメッセージを**広報チラシに記載。

広報チラシ



全体スケジュール



入門的研修・職場体験

- 研修日時：年2回（2会場）
- 研修時間：3日（計21時間）
- 職場体験：1日（3時間）
- 受講料：無料

Point

- ①**高齢者と職員2つの立場で行うロールプレイやグループワークを実施**
- ②研修の受講開始時点で、**各参加者の職場体験先を調整・決定**。委託事業者と職場体験先の事業所は研修期間中も都度連携。

研修実績

【参加者】

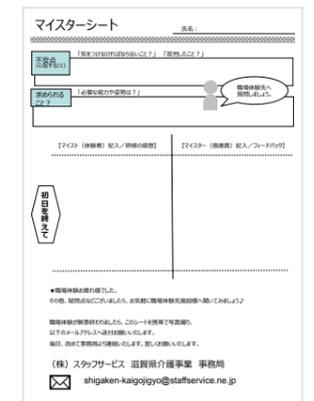
R3：54名、R4：69名、R5：67名（※県福祉人材センター主催）、
 R6：22名（※別途、入門的研修のみの県福祉人材センターが実施する研修に50人参加）
 近江八幡会場：13名、浜大津会場：9名
 【R6年度の修了者】22名
 【R6年度の参加者属性】
 近江八幡会場：20代2名、40代3名、50代5名、60代2名、70代1名（男女比2：1）
 浜大津会場：40代1名、50代6名、60代2名（男女比1：8）

入門的研修カリキュラム

日程	研修科目	時間
1日目	オリエンテーション	9:30-10:00
	介護に関する基礎知識	10:00-11:30
	介護の基本	11:30-13:00
	介護における安全確保	14:00-16:00
2日目	基本的な介護の方法	10:00-13:00
		14:00-18:00
	基本的な介護の方法	10:00-11:00
3日目	認知症の理解	11:00-13:00
		14:00-16:00
	障害の理解	16:00-18:00

参加者へのフォローアップ

研修参加者に「**マイスターシート**」を渡し、**就業にあたっての懸念点や疑問点を職場体験までに記載してもらい、職場体験で施設職員が回答**。シートの活用により、**参加者が施設職員に質問や相談をしやすくなり、不安払拭につながることを狙った**。職場体験後、委託事業者がシートを回収し、参加者全員に電話で職場体験後の感想をヒアリング。その後**就業希望の確認や県福祉人材センターへの連絡促進等を実施**。



マッチング・就職

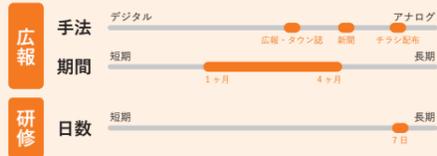
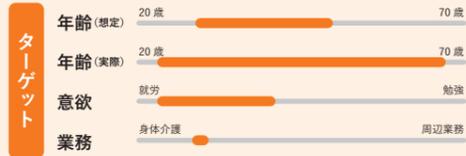
職場体験先での**就職希望があった場合**、**県福祉人材センターがマッチングを行う**。

就職者・雇用形態
 及び職種
 (R6年度実績)
 パートタイム1名(介護職)
 (令和7年2月末時点)

06 岡山県

基礎データ (R6.10.1 現在)

人口 1,830,621 人
 高齢者人口 553,542 人
 高齢化率 31.4%

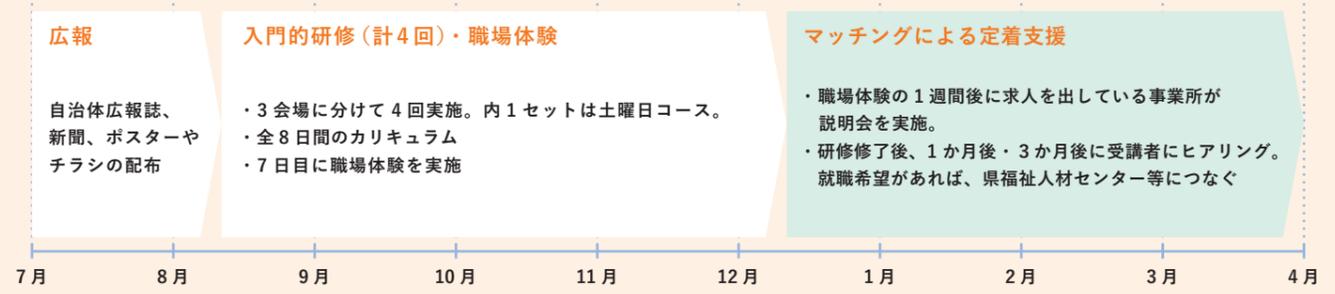


自治体の特徴

- ・県内3地域で実施(土曜日コース有)
- ・介護人材が特に不足する地域での研修開催を委託条件に
- ・身体介助業務での就職希望のみ対象
- ・研修期間内(7日目)に職場体験実施
- ・「介護現場の理解」「介護現場の接遇マナー」等の講義も実施

参加者計41名/就職者計3名

全体スケジュール



体制

- 担当者数：1名
- 介護労働安定センターに委託(担当職員2名)

Point

- ①福祉・介護人材確保に携わる機関・団体を構成員とする協議会を設置し、効率的かつ効果的な施策を検討。
- ②委託事業者の介護労働安定センターは様々な事業や講習を通じて事業所と信頼関係を構築していたため、職場体験受入等の円滑な調整が可能に。

事業設計

【ターゲット層】

- 就労意欲のある人(メインは30代～50代)、転職希望者、子育てが一段落した主婦層、就労希望の高校・専門学校生。
- 周辺業務ではなく、専門性の高い身体介助業務に就く可能性のある人を募集。

Point

- ①県北地域は特に介護人材が不足しているため、仕様書に**県北地域で1回開催するよう記載**。
- ②令和5年度は「**介護に興味がある人**」をターゲットに募集し、受講者は定員を超えたが、**就業意欲のある人は少なかった**。令和6年度は**身体介助業務への就職希望者のみ対象とした**(応募時のアンケートで「就業希望」の回答のみ受講可とした)。
- ③**地域性の理解がある事業者へ委託するため**、以下の要件を満たす事業者に限定。
 1. 岡山県に本支店がある
 2. 入札参加者資格名簿に掲載されており区分がAランク指定

周知・広報

- 各地域共通で実施した広報は会場所在市の広報紙、タウン紙、県内の新聞社での広告掲載。
- 広報で一番有効だったのはタウン紙。県北地域では、上記に加えスーパーでのポスター掲示や委託先職員による戸別チラシ投函を実施。

広報チラシ

介護の入門的研修

受講料・テキスト代 無料

研修実績

【参加者】

R3:27名、R4:48名、R5:104名、R6:41名

津山会場:2名、総社会場:8名

岡山会場(平日):13名

岡山会場(土曜日):18名

【R6年度の参加者属性】

津山会場:40代1名、80代1名(男女比0:2)

総社会場:20代1名、30代1名、40代2名、50代1名、60代3名(男女比1:7)

岡山会場(平日):20代1名、40代4名、50代6名、60代2名(男女比3:10)

岡山会場(土曜日):10代1名、20代1名、40代2名、50代9名、60代5名(男女比4:14)

入門的研修・職場体験

- 研修日時：年4回(4会場)
- 研修時間：8日(職場体験1日含む。日程は数日おきに開催。)
- 受講料：無料

Point

- ①「介護現場の理解」「介護現場の接遇マナー」など**研修の必須講義ではない内容もカリキュラムに**。

介護現場の理解：介護現場での働き方や現場で求められる人物像等を説明し、理解を深めてもらうのが狙い

介護現場の接遇マナー：職場体験で役立つよう現場での立ち振舞い等の接遇マナーを指導。参加者同士の交流の促進も狙いの1つ。

- ②女性の参加者が多いと想定。参加者が**家事の時間を確保**できるように、研修が夕方までに終わるように設定。1日あたりの研修時間を短くし、8日間で開催。
- ③カリキュラムを欠席した場合、**別会場の参加で補講可能**。
- ④職場体験先には、事業理念を理解し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる事業所を選定。

研修実績

【参加者】

R3:27名、R4:48名、R5:104名、R6:41名

津山会場:2名、総社会場:8名

岡山会場(平日):13名

岡山会場(土曜日):18名

【R6年度の参加者属性】

津山会場:40代1名、80代1名(男女比0:2)

総社会場:20代1名、30代1名、40代2名、50代1名、60代3名(男女比1:7)

岡山会場(平日):20代1名、40代4名、50代6名、60代2名(男女比3:10)

岡山会場(土曜日):10代1名、20代1名、40代2名、50代9名、60代5名(男女比4:14)

入門的研修カリキュラム

日程	研修科目	
1日目	オリエンテーション	
	基礎	介護に関する基礎知識
	特別	介護現場の理解
2日目	特別	介護現場の接遇マナー
	基礎	介護の基本
3日目	就職支援(個人面談)	
	入門	認知症の理解
4日目	就職支援(個人面談)	
	入門	介護における安全確保
5日目	就職支援(個人面談)	
	入門	基本的な介護の方法
6日目	職場体験前の心構え	
	入門	
7日目	職場体験(実習)	
	入門	障害の理解
8日目	就職ガイダンス(施設説明会)	
	修了式	

参加者へのフォローアップ

研修を経て生じた気持ちの変化や就職意欲等を把握するため、研修中に必ず個別面談を実施。また、研修後に電話とメールで就職時期の希望や勤務形態、その他就職に向けた不安・疑問点の聞き取りといったフォローアップを実施。

マッチング・就職

介護労働安定センター職員が参加者の希望する就職条件を聞き、県福祉人材センター、職業安定所につなぐ。

就職者・雇用形態及び職種 (R6年度実績)

パートタイム1名(介護職)

短時間勤務1名(介護職)

派遣1名(介護職)

(令和7年2月末時点)

入門的研修をきっかけに入職を予定している人へのインタビュー (p11)

参考資料

入門的研修・職場体験 参加者アンケート例

入門的研修 参加者アンケート例

属性

- 問1 受講者様ご自身についてお聞かせください。
(1) 年代 () 代 性別: 男性 女性 答えたくない
(2) 就労の有無 就労中(介護以外) 就労中(介護関係) 就労していない
- 問2 介護の経験の有無についてお聞かせください。
介護の仕事に就労したことがある 就労したことはないが、家族の介護に関わったことがある
介護に関わった経験はない
- 問3 今回の研修に参加された理由についてお聞かせください。(複数回答可)
介護の仕事への就労を考えているため 現在の仕事に関するスキルアップのため
家族等の介護の参考とするため 地域のボランティア活動等の参加を考えているため
高齢者や介護に関する知識を身に付けるため その他()
- 問4 介護に関心を持ったきっかけを教えてください。(自由回答)
()

広報

- 問5 今回の研修をどこでお知りになりましたか。(複数回答可)
自治体の情報発信 (ホームページ 公式LINE 自治体の広報紙 郵便物 その他())
ハローワーク 公共施設等(市町役場、公民館、図書館、その他())
家族や知人の紹介 その他()

研修の特徴

- 問6 研修内容はどの程度理解できましたか。
とても理解できた やや理解できた どちらでもない
あまり理解できなかった 全く理解できなかった
- 問7 理解できなかった内容とその理由を教えてください。(問6で「あまり理解できなかった」「全く理解できなかった」と回答した方のみ)
()
- 問8 研修で最も印象に残っている内容とその理由を教えてください。
()
- 問9 研修開催時期、研修日程についてどのように感じましたか。
(注) 研修開催時期や研修日程についてどの時期が良いか検討中の場合
開催時期・日程等は良かった 別の時期・日程が良かった。(具体的には)

もたらした効果 研修が

- 問10 研修受講前と比較して、介護に対するイメージが変化しましたか。
とても良くなった やや良くなった 変化なし やや悪くなった とても悪くなった
- 問11 研修受講前と比較して、介護の仕事への就労意欲が高まりましたか。
とても高まった やや高まった 変化なし あまり高まらなかった 全く高まらなかった
- 問12 介護の仕事への就労を希望しますか。
希望する 今すぐではないが希望する 検討中 希望しない

フォローアップ 研修後の

- 問13 自治体による就職支援を希望しますか。
希望する 希望しない
- 問14 介護業界に入職するにあたって受けたい支援内容を教えてください。(複数回答可)
求人の紹介 職場見学・職場体験 その他()
- 問15 今後も介護の資格取得や研修受講をしたいと思いませんか。
思う 今は思わないが興味湧いた 思わない

入門的研修や職場体験を実施するにあたり、「企画段階で検討したターゲットの受講につながっているか」、「どのような広報チャネル・メディアが有効であったか」等を把握するため、参加者からフィードバックを受けることは重要です。各自治体で実施されたアンケートを基に、「入門的研修」「職場体験」2つのアンケート例を作成しました。

そのままご利用頂いたり、
状況に合わせて
カスタマイズしてご活用下さい。

職場体験 参加者アンケート例

属性

- 問1 受講者様ご自身についてお聞かせください。
(1) 年代 () 代 性別: 男性 女性 答えたくない
(2) 就労の有無 就労中(介護以外) 就労中(介護関係) 就労していない
- 問2 介護の経験の有無についてお聞かせください。
介護の仕事に就労したことがある 就労したことはないが、家族の介護に関わったことがある
介護に関わった経験はない
- 問3 職場体験に参加された理由についてお聞かせください。(複数回答可)
介護の仕事への就労を考えているため 現在の仕事に関するスキルアップのため
家族等の介護の参考とするため 地域のボランティア活動等の参加を考えているため
高齢者や介護に関する知識を身に付けるため その他()
- 問4 介護に関心を持ったきっかけを教えてください。(自由回答)
()

広報

- 問5 職場体験をどこでお知りになりましたか。(複数回答可)
自治体の情報発信 (ホームページ 公式LINE 自治体の広報紙 郵便物 その他())
ハローワーク 公共施設等(市町役場、公民館、図書館、その他())
家族や知人の紹介 その他()

職場体験の特徴

- 問6 職場体験の満足度を教えてください。
とても満足している やや満足している 普通
あまり満足していない 全く満足していない
- 問7 満足できなかった内容とその理由を教えてください。(問6で「あまり満足できていない」「全く満足していない」と回答した方のみ)
()
- 問8 職場体験で最も印象に残っている内容とその理由を教えてください。
()

もたらした変化 職場体験が

- 問9 職場体験前と比較して、介護に対するイメージが変化しましたか。
とても良くなった やや良くなった 変化なし やや悪くなった とても悪くなった
- 問10 職場体験前と比較して、介護の仕事への就労意欲が高まりましたか。
とても高まった やや高まった 変化なし あまり高まらなかった 全く高まらなかった
- 問11 介護の仕事への就労を希望しますか。
希望する 今すぐではないが希望する 検討中 希望しない

フォローアップ 職場体験後の

- 問12 自治体による就職支援を希望しますか。
希望する 希望しない
- 問13 介護業界に入職するにあたって受けたい支援内容を教えてください。(複数回答可)
求人の紹介 職場見学・職場体験 その他()
- 問14 今後も介護の資格取得や研修受講をしたいと思いませんか。
思う 今は思わないが興味湧いた 思わない